7　試験方法

各試験動物の両眼の前眼部を試験開始当日に検査し，異常のないことを確かめた。

点眼5分前に，各試験動物の両眼に局所麻酔として0.4 %オキシブプロカイン塩酸塩を1～2滴点眼した。片眼結膜嚢内に検体を0.1 mL点眼し，約1秒間上下眼瞼を穏やかに合わせ保持した。他眼は無処置の対照とした。点眼後1，24，48及び72時間に，スリットランプ(×10)[株式会社　オーヒラ]を用いて角膜，虹彩，結膜などの観察を行い，表-1に示したDraize法の基準に従って眼刺激性の程度を採点した。

なお，点眼後1時間を除く各観察時間にフルオレセインナトリウムを用いて，角膜上皮障害の有無と程度を詳細に観察した。

得られた採点値を用いて各試験動物の合計評点を表-2に示した式から計算し，観察時間ごとに3匹の平均合計評点を求めた。観察期間中の平均合計評点の最高値から，表-3に示した基準に基づき，検体の眼刺激性について評価を行った。

なお，試験開始時及び観察終了時に試験動物の体重を測定した。

8　試験結果(表-4～8)

1)　試験動物①

試験眼では，点眼後1時間に眼瞼及び眼球結膜の発赤(ともに点数1)が見られたが，24時間に消失し，その後刺激反応は見られなかった。対照眼では，観察期間を通して刺激反応は見られなかった。

また，試験眼及び対照眼について，フルオレセインナトリウムによる検査を行ったところ，すべての観察時間においていずれも染色は見られなかった。

2)　試験動物②

試験眼及び対照眼で，観察期間を通して刺激反応は見られなかった。

また，試験眼及び対照眼について，フルオレセインナトリウムによる検査を行ったところ，すべての観察時間においていずれも染色は見られなかった。

3)　試験動物③

試験眼及び対照眼で，観察期間を通して刺激反応は見られなかった。

また，試験眼及び対照眼について，フルオレセインナトリウムによる検査を行ったところ，すべての観察時間においていずれも染色は見られなかった。

観察期間中の平均合計評点の最高値は試験眼では0.7(点眼後1時間)，対照眼では0となった。